

令和8年度 第1回 高齢者福祉専門分科会	資料2-②
令和8年8月19日（水）	

議題3

各種調査結果から見えてきたもの

～各ページの表示項目について～

- ・タイトル : 【資料1】第9期計画と第10期計画（案）の施策体系の比較の「施策 大項目」と対になっています。
- ・調査 : 各アンケート結果が、どのアンケートを出典としているかを示しています。
 ※各アンケート調査の概要については、【資料2-①】各種調査の実施概要をご確認ください。
 ※健康とくらしの調査の指標定義については、【参考資料2】指標定義（健康とくらしの調査／在宅ケアとくらしの調査）をご確認ください。
- ・結果まとめ：アンケート結果の分析を記載しています。

基本目標 1 -(1) 介護予防と健康づくりの推進

調査 ○「健康とくらしの調査」（2025年、2022年、2019年）

結果
まとめ ○要介護リスクは、悪化した項目もあるが、全国自治体との比較では概ね良好な結果である。
○健康行動は、改善された項目が多い。喫煙者の割合が高いことは課題である。
○主観的健康感は、健康寿命や幸福感に相関の高い特に重要な指標とされているが、改善傾向にあり、類似自治体と比較しても良い結果である。

1. 要介護リスク

No.	項目名	調査年度			傾向	順位
		2019	2022	2025		
1	要支援・要介護リスク点数（平均点）	13.6	15.0	16.0	悪化	中位
2	フレイルあり割合（基本チェックリスト8項目以上）	12.8	14.7	14.8	維持	上位
3	運動機能低下者割合（基本チェックリスト）	6.1	6.3	7.3	悪化	上位
4	1年間の転倒あり割合	24.2	23.1	25.9	悪化	やや上位
5	認知症リスク得点（平均点）	3.7	3.8	4.1	悪化	中位
6	口腔機能低下者割合（基本チェックリスト）	17.4	20.3	19.3	改善	やや上位
7	うつ割合（基本チェックリスト）	21.9	25.2	24.6	改善	上位
8	低栄養者割合（基本チェックリスト）	0.9	1.5	1.5	維持	上位
9	IADL低下者割合	7.0	7.2	7.1	維持	上位

参考）類似自治体	
A市	B市
16.7	16.4
15.7	13.8
6.6	6.0
24.3	24.5
4.2	4.1
19.8	18.6
25.7	23.2
1.7	1.5
6.9	6.3

- 【表の見方】
- 「傾向」は、前々回（2019年）調査の結果と比較し、改善・維持・悪化を示している。
 - 「順位」欄は、2025年調査への参加自治体等（73団体）中での順位（順位）を示している。
 - 「傾向」及び「順位」については、評価を色で表現している。

【傾向】

改善

維持

悪化

【順位】

上位

やや上位

中位

やや下位

下位

2. 健康行動

No.	項目名	2019	2022	2025	傾向	順位
1	喫煙する者の割合	12.5	11.3	11.6	悪化	下位
2	健診(1年以内)未受診者割合	33.8	37.4	31.5	改善	中位
3	かかりつけ医がいる者の割合	-	83.9	87.0	改善	やや下位
4	30分以上歩く者の割合	74.5	78.1	79.6	改善	上位

A市	B市
9.4	8.4
32.4	28.4
83.8	85.3
78.9	80.6

3. 主観的健康感

No.	項目名	2019	2022	2025	傾向	順位
1	主観的健康感が良い者の割合	87.4	85.3	86.2	改善	上位

A市	B市
85.0	85.9

基本目標 1 -(2) 生活支援サービスの充実／(3) 安心して暮らし続けられる住まい

調査	○「健康とくらしの調査」（2025年、2022年、2019年）
	○「在宅ケアとくらしの調査」 ※項目名に【在宅ケア】と表示
結果 まとめ	○ 経済状況 について、“経済的不安感がある者”の割合は改善した一方、“この1年間に経済的な困難が増した者”の割合は増加している。
	○ 住まい・地域の環境 について、概ね良い環境と受け止められているが、“必要時に物やサービスを購入できる者”の割合が低下している。
	○ 日常生活上の支援やサービスの提供 について、一般高齢者・要介護高齢者のいずれも、“提供されている”と感じている割合が低い。

1. 経済状況

No.	項目名	調査年度			傾向	順位	参考) 類似自治体	
		2019	2022	2025			A市	B市
1	経済的不安感がある者の割合	24.8	25.4	24.3	改善	やや上位	23.5	21.2
2	この1年間に経済的な困難が増した者の割合	-	8.9	9.4	悪化	やや下位	9.1	7.6

【表の見方】

- 「傾向」は、前々回（2019年）調査の結果と比較し、改善・維持・悪化を示している。
- 「順位」欄は、2025年調査への参加自治体等の中での順位（順位）を示している。
 - ・健康とくらしの調査：73団体
 - ・在宅ケアとくらしの調査：34団体
- 「傾向」及び「順位」については、評価を色で表現している。

【傾向】	【順位】
改善	上位
	やや上位
維持	中位
	やや下位
悪化	下位

2. 住まい・地域の環境

No.	項目名	2019	2022	2025	傾向	順位	A市	B市
1	【在宅ケア】住環境が快適な者の割合	-	-	88.7	-	上位	-	-
2	住んでいる地域は治安が良いと感じている者の割合	-	-	56.8	-	上位	53.0	52.7
3	住んでいる地域には心地よく歩ける場所があると感じている者の割合	-	-	77.3	-	上位	67.5	72.6
4	運動教室やスポーツ・体操サークルが盛んな地域だと思う者の割合	-	-	43.4	-	上位	48.3	48.5
5	自分にとって生活に必要な物やサービスを、必要な時に購入することができる者の割合	-	92.8	89.2	悪化	中位	90.4	93.1

3. 日常生活上の支援やサービスの提供

No.	項目名	2019	2022	2025	傾向	順位	A市	B市
1	日常生活や健康に必要なことが行政・民間サービスによって提供されていると感じている者の割合	-	37.2	34.6	悪化	下位	35.9	38.9
2	【在宅ケア】日常生活や健康に必要なことが行政・民間サービスによって提供されていると感じている者の割合	-	-	57.6	-	下位	-	-
3	【在宅ケア】介護保険サービス以外の支援サービスを利用している者の割合	-	-	31.5	-	上位	-	-

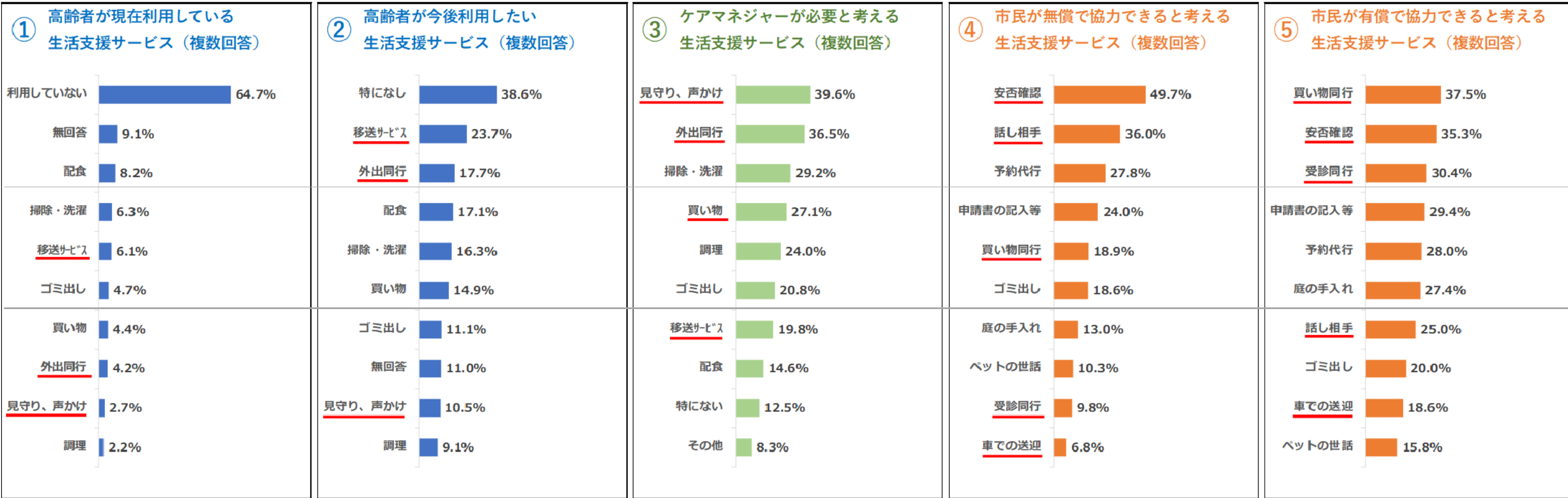
基本目標 1 -(2) 生活支援サービスの充実／(3) 安心して暮らし続けられる住まい（続き）

生活支援サービスのニーズと地域における支援の可能性

調査 ○各グラフの出典：①・②「在宅ケアとくらしの調査」／③「ケアマネジャー調査（C票）」／④・⑤「高齢期のくらしや最期への備えに関する意識調査」

結果 ○外出同行（受診同行・買い物同行）は、高齢者・ケアマネジャーのニーズが高く、市民の協力意向も高い。

まとめ ○見守り・声掛け（安否確認・話し相手）は、高齢者のニーズはやや低い、ケアマネジャーのニーズは高く、市民の協力意向が高い。



三者の意向の重なり	支援分野	高齢者のニーズ (今後利用したい)	ケアマネジャーの 必要性認識	市民の協力意向		分析
				無償で協力できる	有償で協力できる	
	外出同行 (受診・買い物同行)	◎ (高い)	◎ (高い)	○ (やや高い)	◎ (高い)	高齢者・ケアマネジャーのニーズが高く、市民の協力意向も高い。
	移送サービス (車での送迎)	◎ (高い)	△ (やや低い)	△ (やや低い)	△ (やや低い)	高齢者のニーズは高いが、ケアマネジャーのニーズはやや低く、市民の協力意向もやや低い。
	見守り・声掛け (安否確認・話し相手)	△ (やや低い)	◎ (高い)	◎ (高い)	◎ (高い)	高齢者のニーズがやや低い、ケアマネジャーのニーズは高く、市民の協力意向が高い。

※「◎：高い（上位3項目）」「○：やや高い（上位4～7項目）」「△：やや低い（上位8～10項目）」

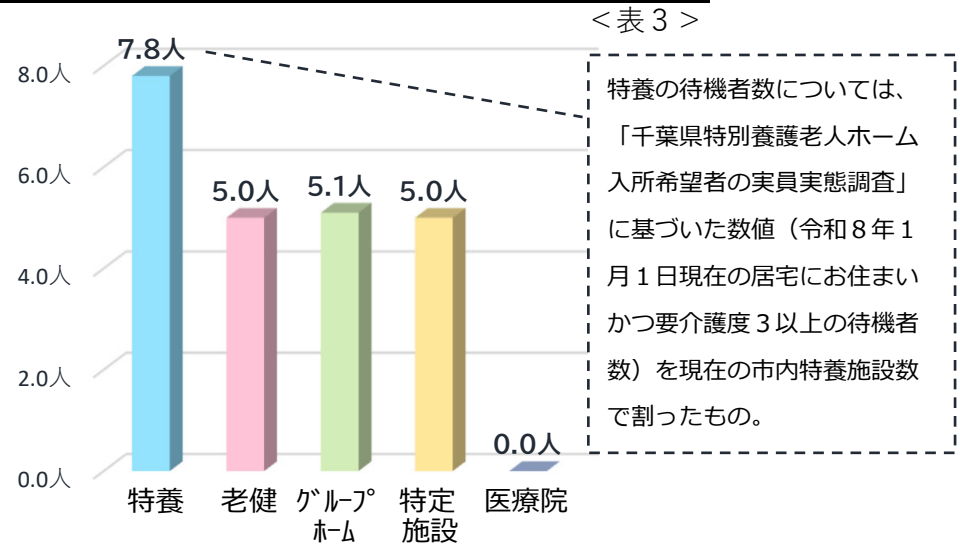
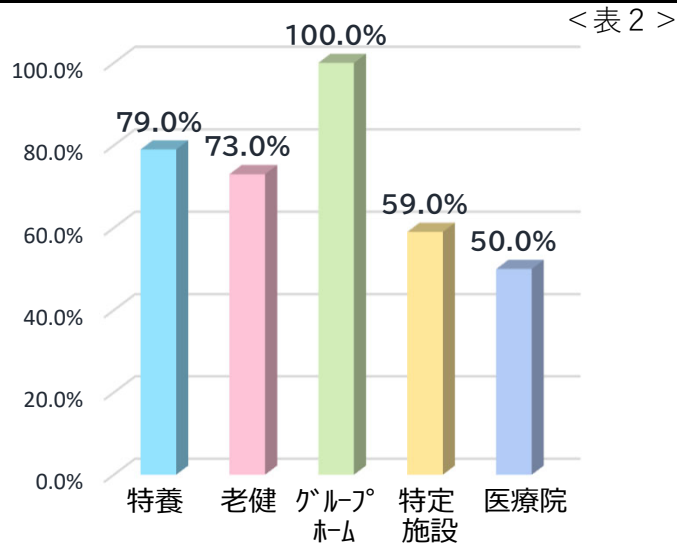
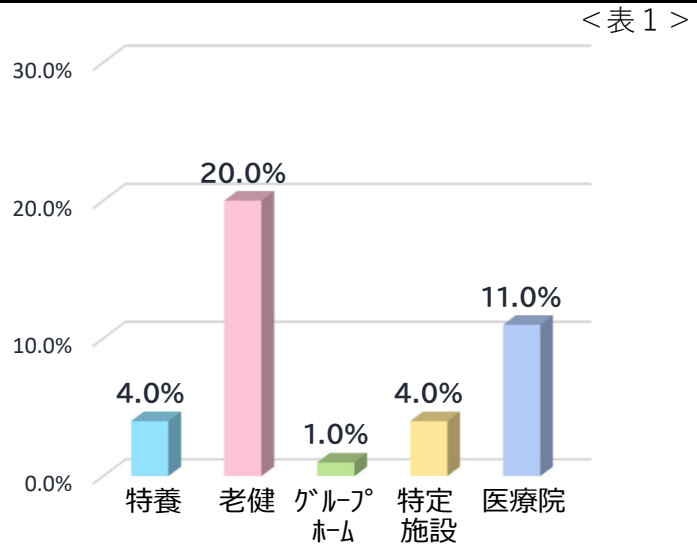
基本目標 1 -(4) 持続可能なサービス提供体制の構築

調査 ○「居所変更実態調査」（上段）／「介護人材実態調査」（下段）

施設・居住系サービスの利用状況等

○空きベッド率について、認知症高齢者グループホームが1%と低く、高い利用状況にある。
○市内利用率について、特別養護老人ホームや介護老人保健施設が比較的高い。

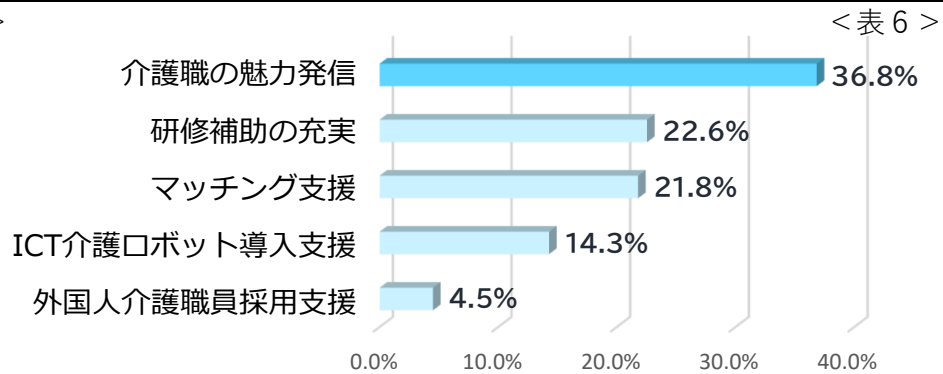
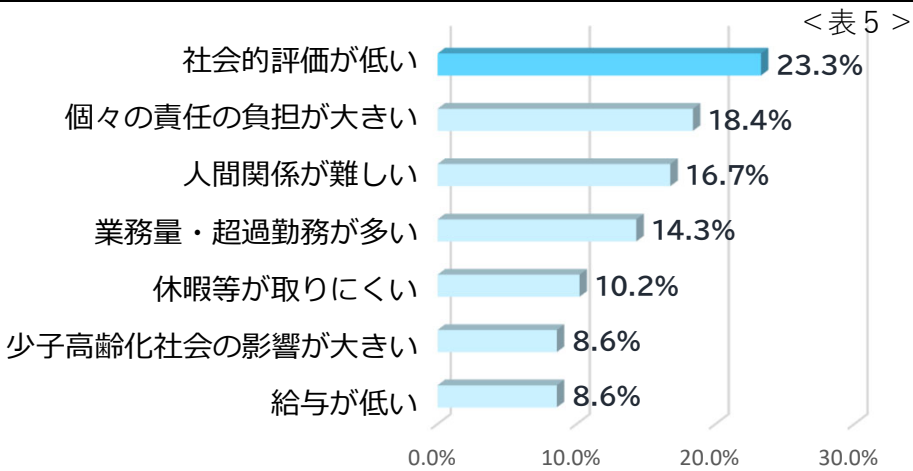
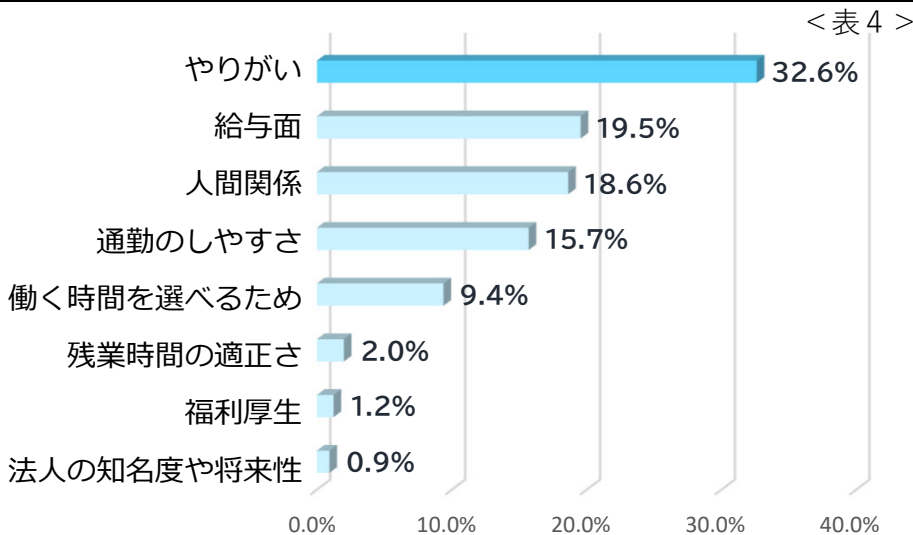
項目	1施設あたりの空きベッド率	1施設あたりの市内利用率	1施設あたりの待機者数
算定方法	空床数÷定員数	市内利用者数÷現利用者数	待機者数÷回答事業所数



介護人材の実態把握

○介護職員として就労するうえでは、給与面だけでなく、仕事へのやりがいや通勤のしやすさも重視されている。
○事業所側では、介護人材の新規参入や定着にあたり、社会的評価の低さが主な課題として認識されており、行政に対しては、介護職の魅力発信が求められている。

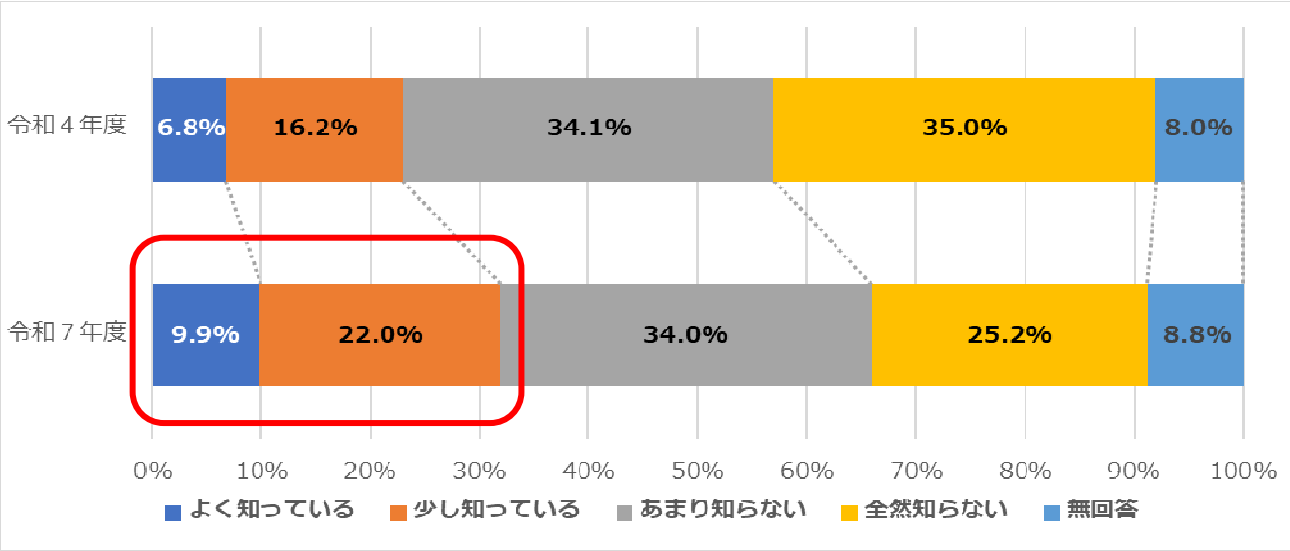
項目	【職員票】 介護職員として就労するにあたって最も重要視していること	【事業所票】 介護人材の新規参入や就業の定着が難しいと考える理由	【事業所票】 介護人材確保対策として市川市（行政）に要望する事業
----	--------------------------------------	-------------------------------------	-------------------------------------



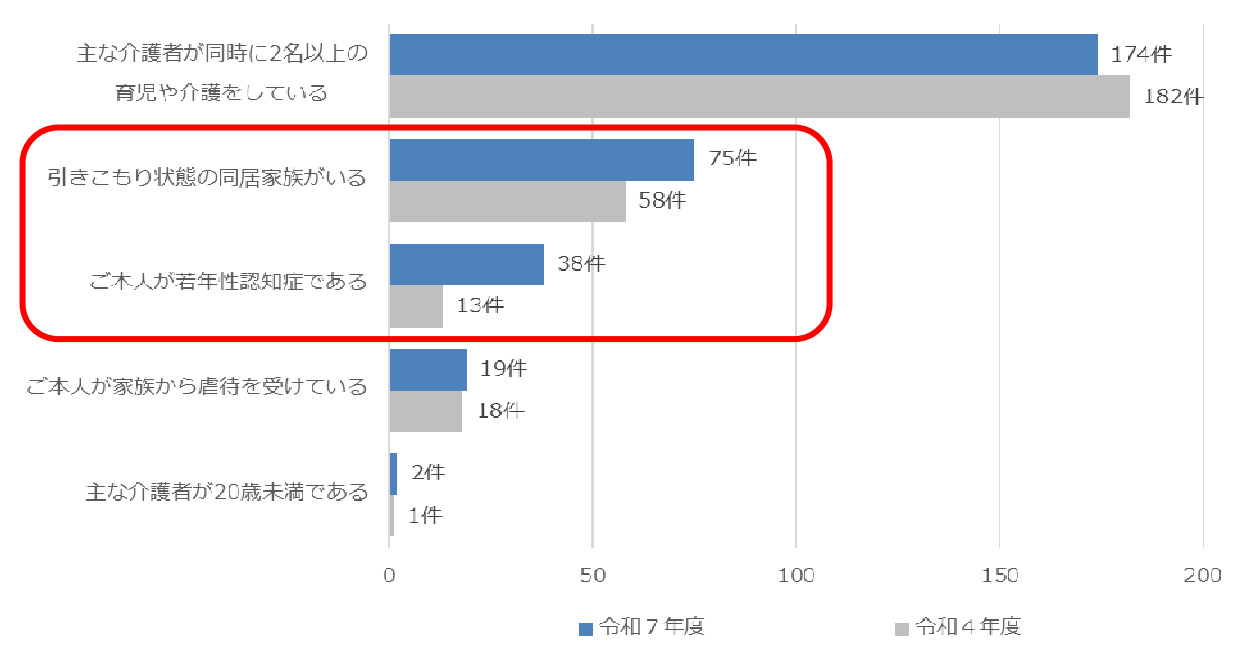
基本目標 2 -(1) 相談支援の充実に向けて

調査	○「健康とくらしの調査」(2025年、2022年)※本市独自設問
	○「ケアマネジャー調査」(2025年、2022年)
結果 まとめ	○ <u>高齢者サポートセンターの認知度</u> は、「知っている」(よく知っている+少し知っている)割合は31.9%であり、前回の結果と比較して約9ポイント向上した。
	○ <u>ケアマネジャーが担当する複合課題</u> は、「ダブルケア」が最も多い。3年前と比べて「本人が若年性認知症」や「ひきこもり」の件数が伸びている。
	○ <u>ケアマネジメント業務以外でやむを得ず対応している業務</u> は、日常的な生活の支援を超えて、入退院や死亡時の付き添いにも及んでいる。

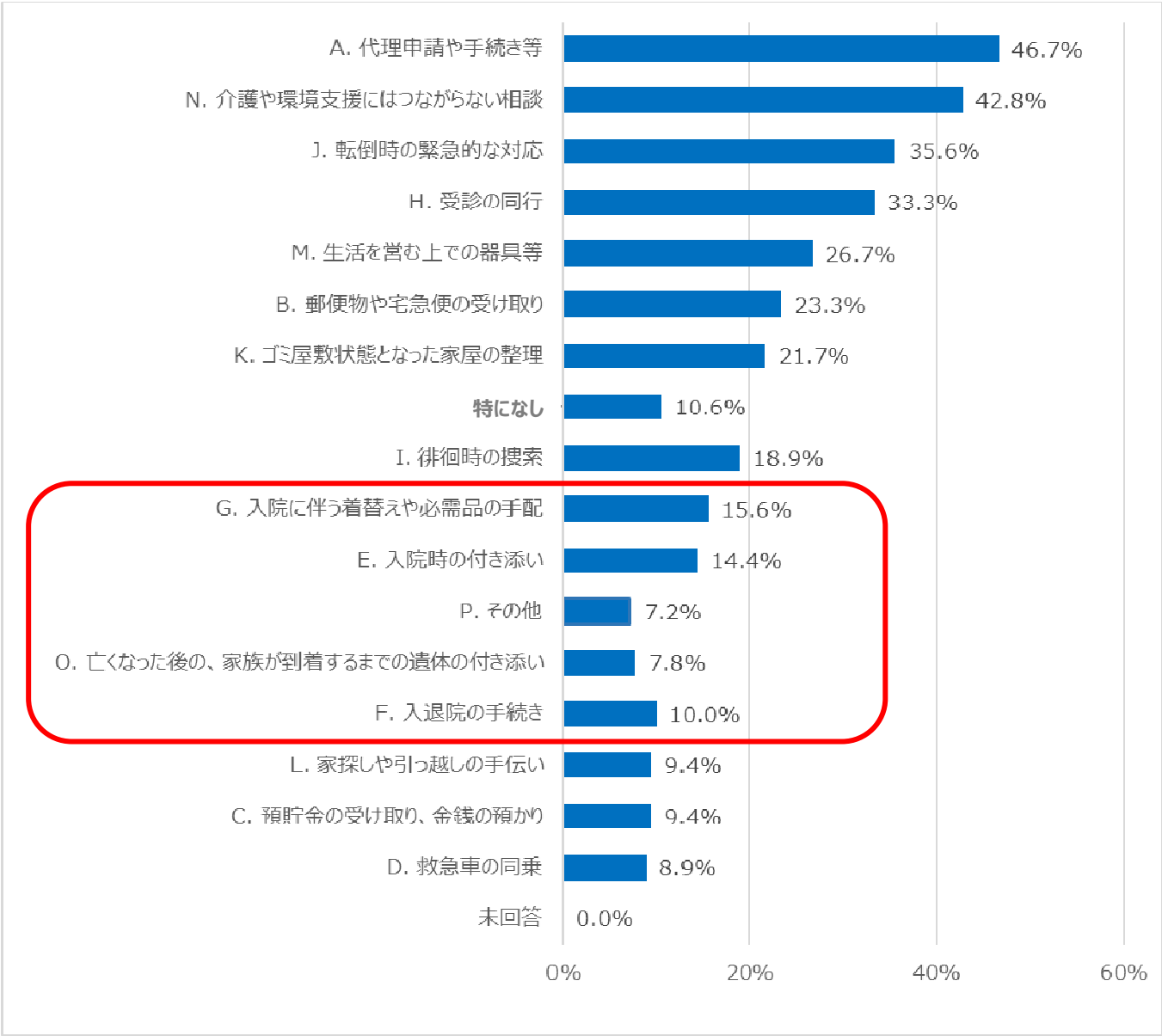
1. 高齢者サポートセンター（地域包括支援センター）の認知度



2. ケアマネジャーが担当する複合課題（※担当ケースのうち複合課題を有する件数）



3. ケアマネジメント業務以外でやむを得ず対応している業務



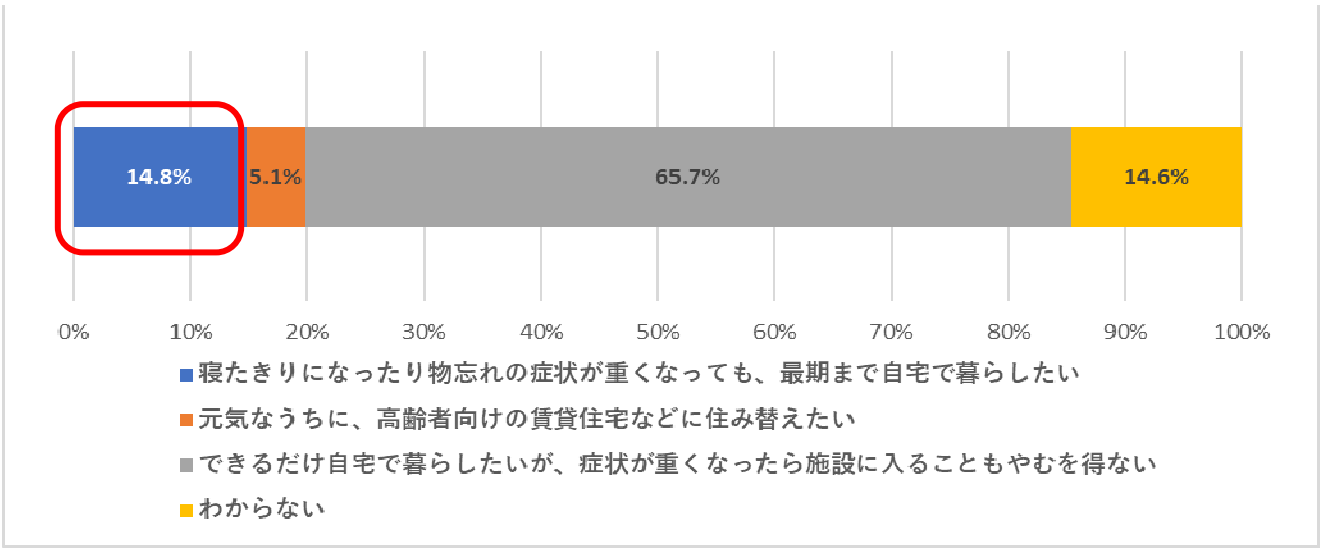
基本目標 2 -(2) 在宅医療・介護連携の推進

調査 ○「健康とくらしの調査」（2025年）

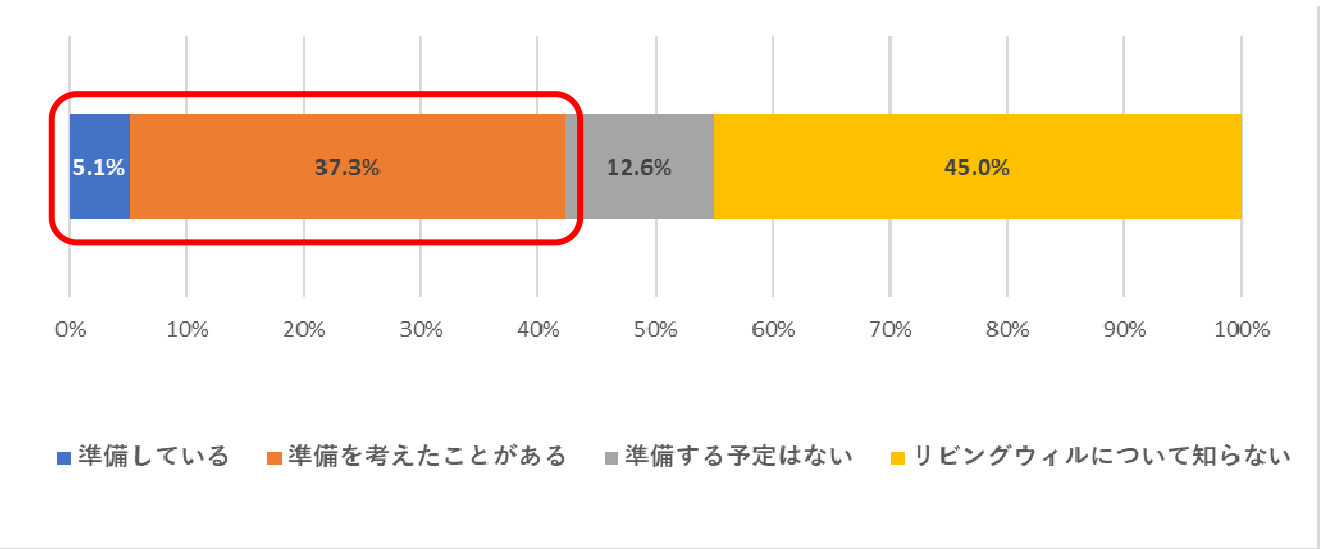
結果
まとめ

- 今後の生活の考えについて、7割近くは「症状が重くなったら施設入所もやむを得ない」と考えているが、約15%は「最期まで自宅で暮らしたい」と考えている。
- リビングウィルを準備しているかについて、「準備を考えたことがある」も合わせると4割以上となっており、浸透しつつある様子がうかがわれる。
- 人生会議（ACP：アドバンス・ケア・プランニング）について、「知っている」割合は1割に留まっている。

1. 今後の生活についてどのように考えているか

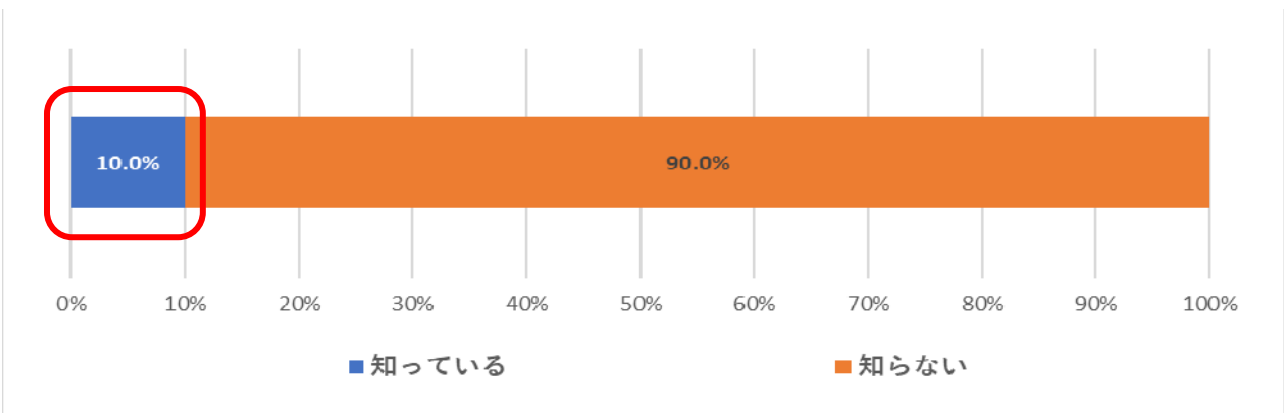


2. リビングウィルを準備しているか

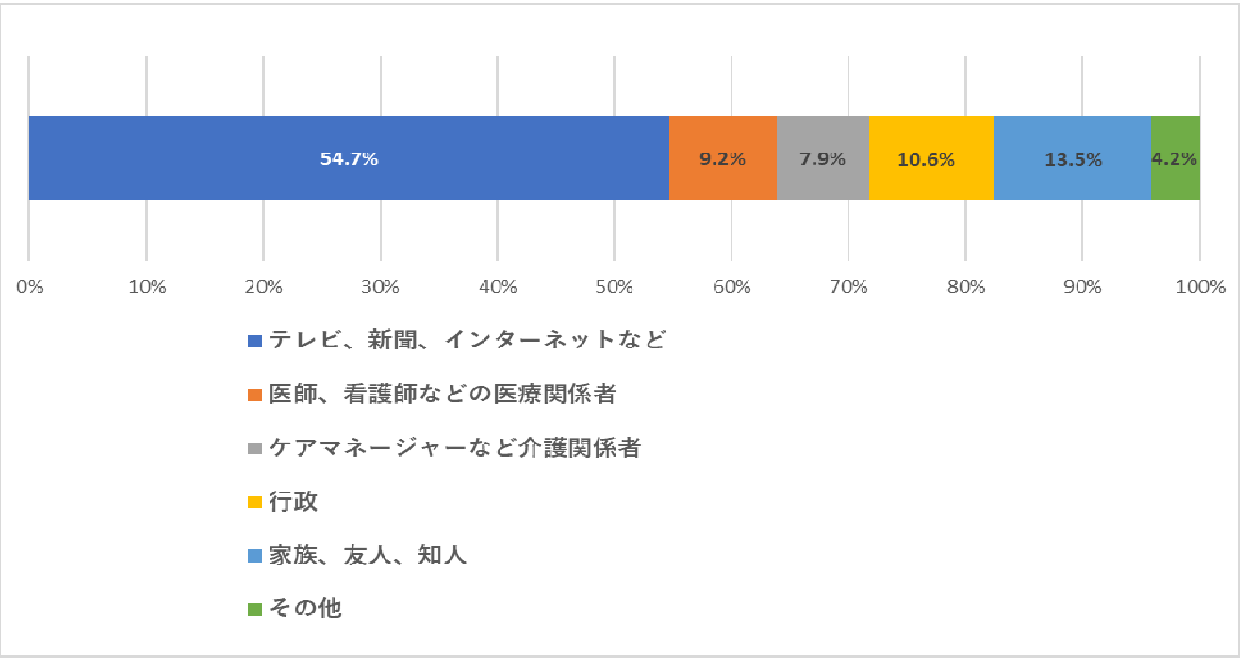


3. 人生会議（ACP：アドバンス・ケア・プランニング）について

①人生会議（ACP：アドバンス・ケア・プランニング）について知っているか



②人生会議（ACP：アドバンス・ケア・プランニング）についてどこで知ったか



基本目標 2 -(3) 最期への備え

調査 ○「高齢期のくらしや最期への備えに関する意識調査」

結果 ○**老後の備え**として、健康に関する備え、次いで終活関係の準備が必要と考える者が多い。
○**終活関係の準備**について、実際に終活準備をしている者は約 3 割に留まり、身の回りの所有物の整理や身近な人へのメッセージやエンディングノートと、身近なところから
まとめ 終活に取り組んでいる。
○**行政に期待する取り組み**として、「終活関係の相談窓口の設置」が半数を超え最も多くなっている。

1. 老後の備えとして取り組む必要があるもの（3つまで選択可）【60歳以上の方の回答】

健康に関する備え（健康の維持・増進、介護予防、保険、病気やけがの治療等）	84.9%
終活関係の準備（自身の葬儀やお墓の準備、財産等の整理・相続の準備等）	59.7%
防災・防犯に関する備え（住宅の防災対策、防災用品備蓄、防犯システム利用等）	32.3%
資産形成（貯蓄・投資）など	24.4%
住まいに関する備え（住宅の確保やリフォーム、修繕等）（防災・防犯除く）	21.4%
財産管理に関する備え（認知機能低下等に伴う財産管理相談（金銭管理サービス利用等））	20.3%
地域・職場等で人とのつながりを持つこと	14.6%
その他	0.8%

3. 行政に期待する取り組み【60歳以上の方の回答】

終活関係の相談窓口	53.4%
終活情報の登録(緊急連絡先・家族情報・医療情報等)	31.5%
死後事務(葬儀、行政手続き、遺品整理等)に関する事前の契約	29.2%
定期的な安否確認	28.4%
自宅の家財・遺品等の処分	24.9%
遺言預かりサービス	15.5%
保証人の紹介・相談窓口	14.0%
その他	1.9%

2. 終活関係の準備【60歳以上の方の回答】

① 終活関係について準備をしているか

準備している : 27.6%
準備していない : 72.4%

② 終活関係のどのような準備をしているか

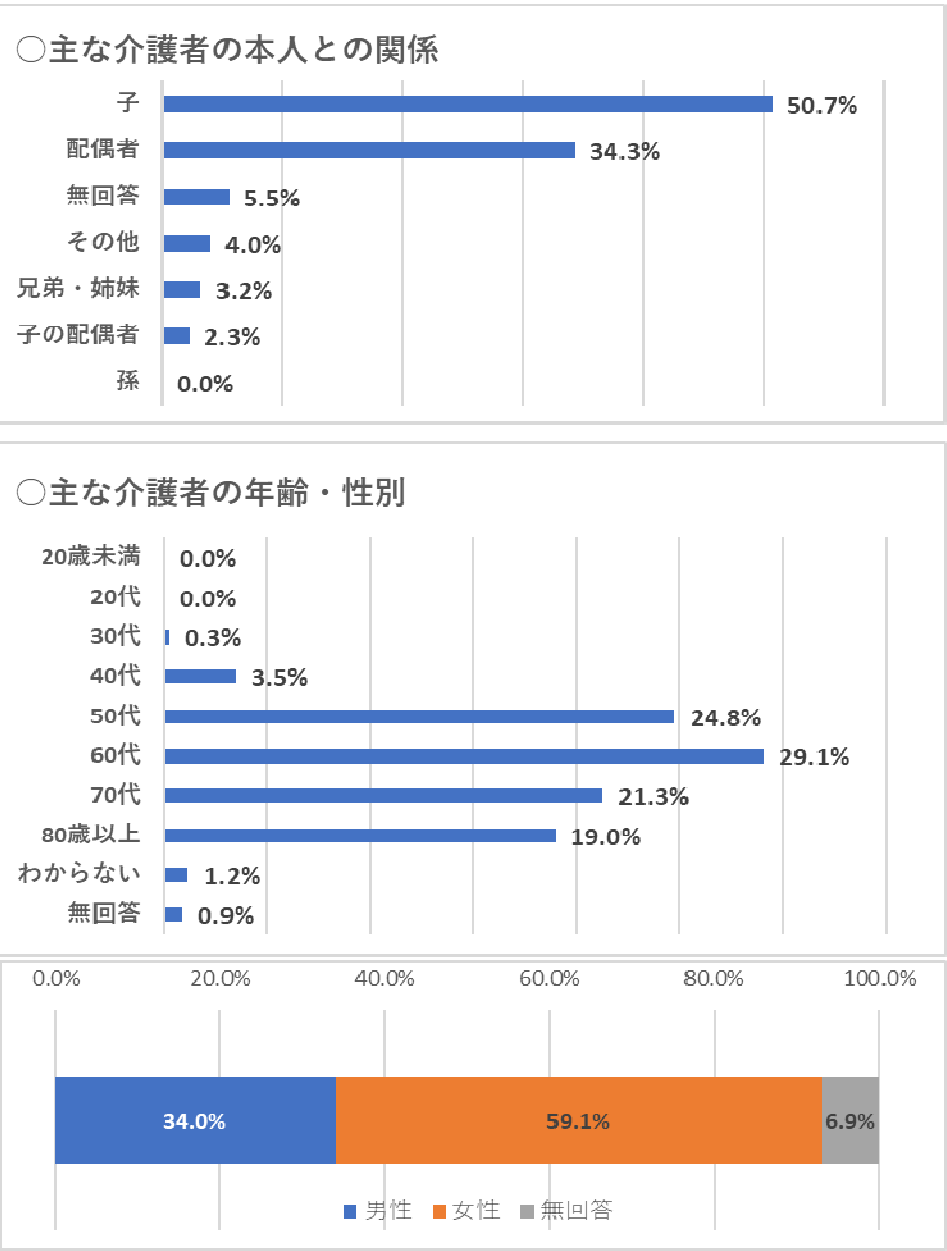
身の回りの所有物の整理（財産の整理（相続の等準備）を除く）	32.2%
身近な人へのメッセージやエンディングノート	22.2%
財産の管理（相続の準備等）	15.0%
お墓の準備	13.3%
自身の死後の希望や意思を遺族等に伝える文書の作成	10.0%
葬儀の準備	4.4%
リビングウィルの作成（終末期医療の指示・介護の希望・代理人の指定等）の作成	2.2%
その他	0.5%

基本目標 2 -(4) 介護に取り組む家族等への支援の充実

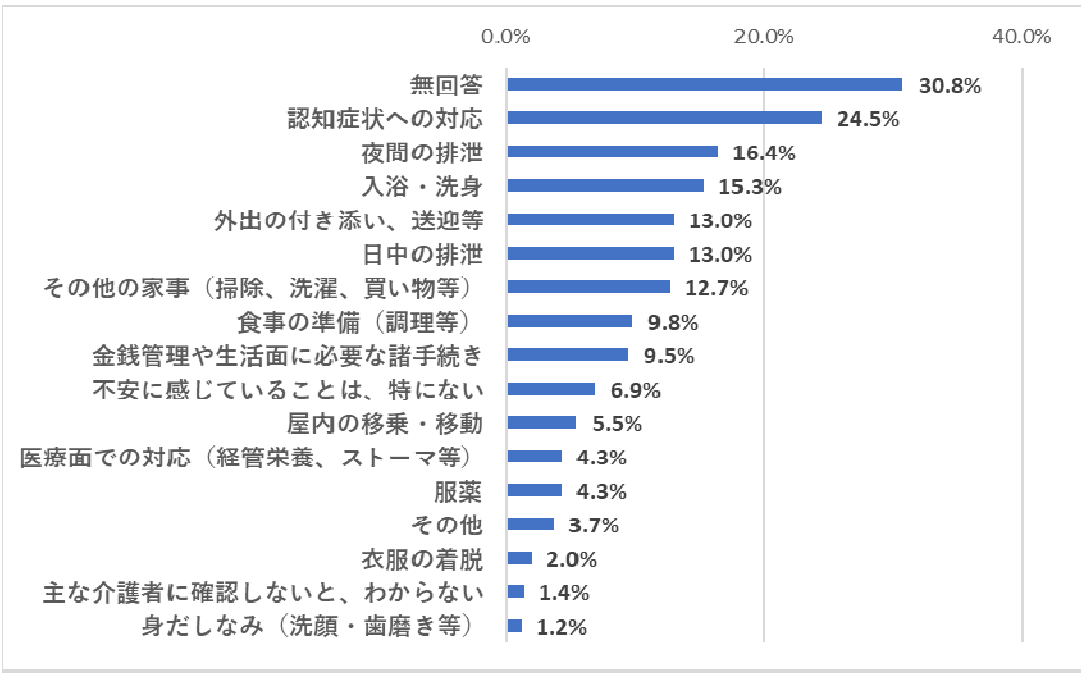
調査 ○「在宅ケアとくらしの調査」

結果
まとめ ○**介護者の現況**は、主な介護者は子や配偶者で、年齢別で見ると60代、次いで50代が多く、性別で見ると約 6 割が女性である。
○**介護者が不安に感じる介護**は、認知症状への対応が最も多く、次いで夜間の排泄、入浴・洗身となっており、日常生活の中で労力を要する対応に不安が見られる。
○**介護のための離職**については、介護を理由に仕事を辞めていない者は 7 割である。一方、約 1 割は離職している。

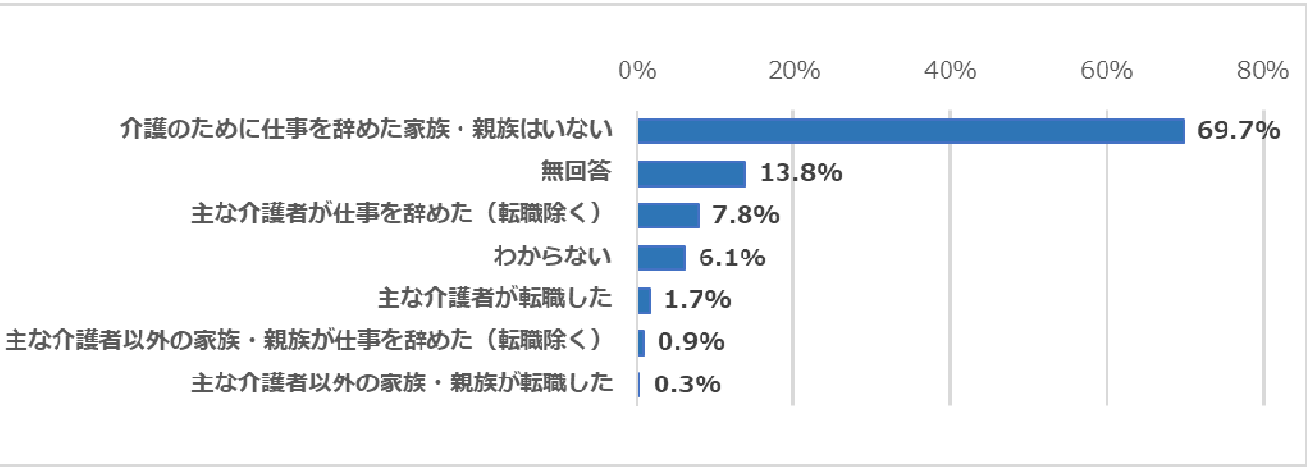
1. 介護者の現況



2. 介護者が不安に感じる介護（複数回答）



3. 介護のための離職の有無



基本目標 3 -(1) 多様な社会参加の促進

調査 ○「健康とくらしの調査」（2025年、2022年、2019年）

結果
まとめ ○社会参加の状況について、多くの項目で改善がみられる。他市との比較は、項目によって「上位」のものから「下位」まで様々である。
○グループ活動への参加意向について、改善傾向にあり、他市との比較は上位となっている。
○閉じこもりの状況について、悪化しているが、他市との比較は「やや上位」である。

1. 様々な社会参加の状況

No.	項目名	調査年度			傾向	順位	参考) 類似自治体	
		2019	2022	2025			A市	B市
1	友人知人と会う頻度が高い(月1回以上)者の割合	65.9	60.8	62.9	改善	下位	64.6	65.5
2	収入のある仕事への参加者(月1回以上)割合	33.7	32.9	32.0	悪化	やや下位	29.1	28.2
3	スポーツの会参加者(月1回以上)割合	30.5	25.0	26.9	改善	上位	29.4	31.9
4	趣味の会参加者(月1回以上)割合	35.6	25.9	26.6	改善	やや上位	28.0	31.2
5	ボランティア参加者(月1回以上)割合	12.5	8.6	11.9	改善	やや下位	11.2	13.7
6	学習・教養サークル参加者(月1回以上)割合	10.2	8.4	8.3	維持	やや上位	8.4	10.1
7	通いの場参加者(月1回以上)割合	11.6	6.9	7.9	改善	下位	8.8	10.8
8	町内会・自治会参加者(月1回以上)割合	7.6	5.7	6.4	改善	やや下位	7.7	7.6
9	特技や経験を他者に伝える活動参加者(月1回以上)割合	7.2	5.3	5.7	改善	やや上位	5.6	6.6
10	老人クラブ参加者(月1回以上)割合	4.6	2.5	2.6	維持	下位	4.5	3.9

【表の見方】

- 「傾向」は、前々回（2019年）調査の結果と比較し、改善・維持・悪化を示している。
- 「順位」欄は、2025年調査への参加自治体等（73団体）中での順位（順位）を示している。
- 「傾向」及び「順位」については、評価を色で表現している。

【傾向】	【順位】
改善	上位
	やや上位
維持	中位
	やや下位
悪化	下位

2. グループ活動への参加意向

No.	項目名	2019	2022	2025	傾向	位置	A市	B市
1	グループ活動へ参加意向がある者の割合	57.0	56.9	57.7	改善	上位	53.7	60.7
2	グループ活動(企画・運営)へ参加意向がある者の割合	42.1	39.3	40.7	改善	上位	35.2	40.8

3. 閉じこもりの状況

No.	項目名	2019	2022	2025	傾向	位置	A市	B市
1	閉じこもり者割合	3.1	2.9	3.3	悪化	やや上位	3.2	3.2

基本目標 3 -(2) 誰もが共に暮らす地域へ①（孤独・孤立防止関連）

調査 ○「健康とくらしの調査」（2025年、2022年、2019年）

結果 ○孤独・孤立に関する状況は、改善傾向の項目がほとんどである。他自治体との比較では、「下位」や「やや下位」が多くなっている。

まとめ ○つながりや居場所の状況は、居場所があると感じる者の割合や、ICTを活用したつながりは、比較的良い状況であると考えられる。

1. 孤独・孤立に関する状況

No.	項目名	調査年度			傾向	順位	参考) 類似自治体	
		2019	2022	2025			A市	B市
1	ふだんから家族や友人と付き合いがある者の割合	-	89.5	92.9	改善	やや下位	93.8	94.0
2	情緒的(心配事や愚痴)サポート受領者割合	93.4	94.7	95.6	改善	下位	96.1	96.2
3	情緒的(心配事や愚痴)サポート提供者割合	93.1	94.0	94.1	維持	やや下位	94.3	94.8
4	手段的(看病や世話)サポート受領者割合	92.9	92.2	92.7	改善	下位	93.4	94.6
5	手段的(看病や世話)サポート提供者割合	75.3	79.4	80.3	改善	やや下位	80.5	82.0
6	孤食者割合	-	7.1	5.9	改善	中位	5.6	4.9
7	地域の人々から大切にされ、地域の一員となっていると感じる者の割合	-	24.5	25.1	改善	下位	30.6	31.0

【表の見方】

- 「傾向」は、前々回（2019年）調査の結果と比較し、改善・維持・悪化を示している。
- 「順位」欄は、2025年調査への参加自治体等（73団体）中での順位（順位）を示している。
- 「傾向」及び「順位」については、評価を色で表現している。

【傾向】

改善

維持

悪化

【順位】

上位

やや上位

中位

やや下位

下位

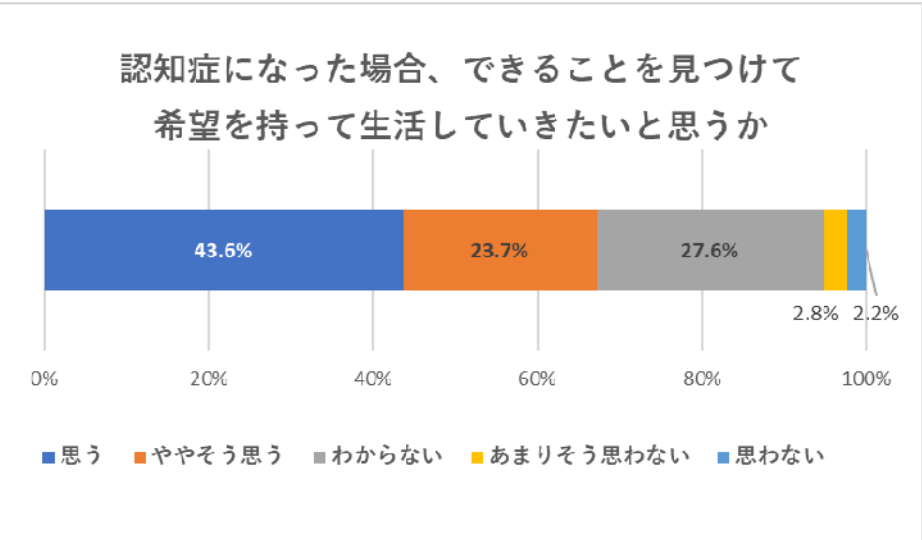
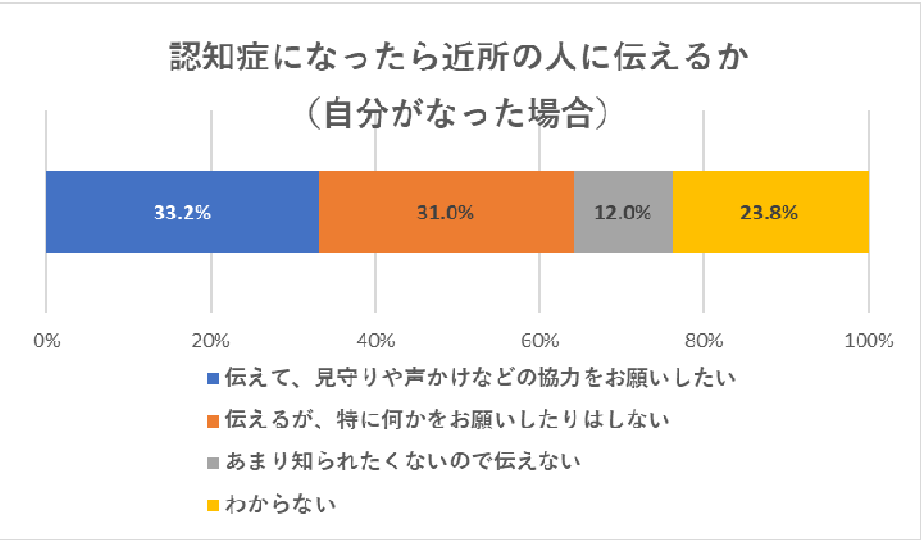
2. つながりや居場所の状況

No.	項目名	2019	2022	2025	傾向	順位	A市	B市
1	地域の行事に参加している者の割合(運営・役目)	-	-	8.7	-	下位	12.6	15.3
2	地域の行事に参加している者の割合(参加者)	-	-	36.8	-	中位	33.8	33.7
3	自宅・職場以外に居場所があると感じる者の割合	-	-	91.2	-	やや上位	90.9	91.4
4	日常的に情報通信機器やインターネットで連絡を取っている者の割合	-	-	92.0	-	上位	87.6	91.0

基本目標 3 -(2) 誰もが共に暮らす地域へ②（認知症施策関連）

調査	○「健康とくらしの調査」
	○「高齢期の暮らしや最期への備えに関する意識調査」
結果 まとめ	○ <u>認知症になった場合の考え</u> について、「近所の人に伝える」割合は6割を超えており、その半数程度が「見守りや声かけなどの協力をお願いしたい」としている。
	○「できることを見つけて希望を持って生活していきたいか」について、「思う・ややそう思う」が7割近くとなっている。
	○「認知症の方と仲間同士で交流を持ちたいと思うか」について、「思う・ややそう思う」が約4割に留まっている。
	○ <u>認知症サポーター養成講座について</u> 、「知らない」が66%である。受講希望については、「個人で・町内会で・職場で受講したい」を合わせると5割を程度となっている。

1. 認知症になった場合についての考え



2. 認知症サポーター養成講座について

